



全難聴便り

発行：事務局 〒162-0066
東京都新宿区市谷台町14-5 MSビル市ヶ谷台1F
編集：全難聴事務局
電話：03(3225)5600
FAX：03(3354)0046
URL：<http://www.zennancho.or.jp>
E-Mail：zennacho@zennancho.or.jp

■ 全難聴一般社団法人化する！

1991年の社団法人化から22年。平成25年3月27日、全難聴は内閣府より一般社団法人として認可されました。

法人名称の変更のお知らせ

拝啓

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます

平素は格別のご高配を賜り 厚く御礼申し上げます

さて当連合会は平成3年9月に旧厚生省の社団法人認可を受け難聴者・中途失聴者の福祉の向上に邁進してきました

この度 国の公益法人改革により特例民法法人として新法人への移行するための認可申請を内閣府に提出しておりました

ここに新法人として一般社団法人の認証を受けましたことを通知申し上げます

つきましては平成25年4月1日より一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会と改称いたしました新法人名称により更に仲間の福祉、権利擁護活動に全国の加盟協会と手を携えて邁進する所存でありますのでよろしくご指導ご鞭撻の程お願いいたします
まずは書中をもってご挨拶申し上げます

敬具

記

新名称 一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

〒162-0066

東京都新宿区市谷台町14-5 MSビル市ヶ谷台1F

一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 略称：(一社)全難聴

理事長 高岡 正

他 役職員一同

平成25年4月吉日

■ 四団体主催シンポジウム開催（3/20）

情報・コミュニケーション保障の在り方を明確にアピールすべくシンポジウムを3月20日（祝）開催しました。4つの障害者団体が、情報アクセスとコミュニケーションの保障はすべての障害者に必要なものという観点から、共同開催という画期的な取り組みをしました。



【主催】

財団法人 全日本ろうあ連盟
社会福祉法人 日本盲人会連合
社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
社会福祉法人 全国盲ろう者協会

日本財団のご協力により、財団ビル内の会議室を無償で提供していただき、視覚、聴覚それぞれの障害者に対応した情報保障体制を整え、開催しました。

聴覚障害者のみならず、盲ろう者、弱視を伴う参加者、そしてそれぞれの支援者が集うシンポジウムとなり、200名を超える参加者が集まりました。

日本盲人会連合竹下会長の開会あいさつに続き、全日本ろうあ連盟久松事務局長により基調報告がされました。

そして内閣府障害者政策委員会委員長でもある静岡県立大学石川教授による「障害者政策への意見」と題した記念講演が行われました。



当日資料は、大きめのフォントによる墨字資料に加えて、点字資料も用意されました。

シンポジウム後半では、情報・コミュニケーション法に関するパネルディスカッションが行われ、コーディネーターとして、高岡理事長。パネリストに新谷副理事長が登壇しました。

権利条約批准に向けての取り組みについて、また総合支援法に続く差別禁止法の展望などについてパネラーの意見が出され、そのなかで、「合理的配慮」そして世の中す



べてにおける「ユニバーサルデザイン」に関して議論が行われました。

途中、盲ろう者協会理事の福島 智さんのメッセージも読み上げられました。

会場全体の情報保障は、5 名の手話通訳者、6 名の要約筆記者により行われました。磁気ループの設置には、佐野事務局長が尽力され、(株)ソナールより長尺ケーブルの貸与など多くのご協力を頂きました。

会場内の個別の情報保障は多様で、手話、触手話、音声通訳などの通訳介助者による支援以外に、弱視を伴う盲ろう者は、自身の PC に全体投影の文字を自分たちなりの「大きく見やすい」設定にして見ていました。



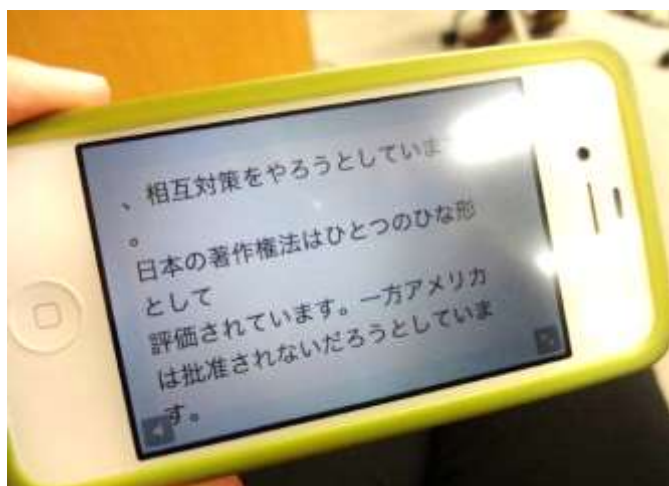
会場で全体投影を行う PC 要約筆記者とは別に、当日は、「目で聴くテレビ」が情報保障を行っていました。

こちらは、会場の音声を受けた地方の入力者が、文字入力してインターネット上に表示しました。

これにより、当日参加できない人、地方在住の人でも、文字情報によって会場で行われている議論を知ることができたのです。

会場内の参加者の中にもスマートフォンを利用して、内容をみる人が散見されました。

「写真提供：日本聴力障害新聞、全日ろう連」



■ JDF 東日本大震災被災障害者総合支援本部第三次報告会（3/5）



東日本大震災から 2 年目にあたって、総合支援本部は提言を行うための第三次報告会を開催しました。参議院議員会館 1 階講堂は、300 人以上と思われる参加者で満員でした。

障害者の死亡率の高さに加え、2 年を過ぎてもなお必要とされる避難先での支援についての問題も含めてアピールが述べられました。

全難聴から新谷副理事長が参加しました。

報告会の中程で、ドキュメンタリー映画「生命のことづけ～死亡率 2 倍 障害のある人たちの 3.11～」完成記念上映が行なわれました。

「写真提供：JDF 事務局」

■ 厚労省カリキュラム準拠要約筆記者養成テキスト発売（4/1）

厚生労働省カリキュラム準拠

「要約筆記者養成テキスト」（上巻・下巻セット）

1 セット 3,300 円（税込） 4 月初旬より販売

ご注文は、全難聴または全要研（名古屋事務所）へ。

※全難聴の加盟協会が実施体や受講生への販売を請ける場合、「加盟協会を通じた頒布」を全難聴事務局でのみ受け付けます。詳細は 全難聴事務局までお問い合わせください

■ 理事の動き（3月1日～3月31日）

- 3月4日 共用品推進機構理事会（小川）
情文センター研修会総括（高岡）
- 3月5日 JDF 第三次報告会（新谷）
- 3月6日 共用品標準化委員会（小川）
- 3月11日 日本障害者リハビリテーション協会理事会（高岡）
- 3月12日 厚労省にて会話支援機の運用結果の説明（川井）
- 3月19日 差別禁止法小委員会（新谷）
- 3月20日 四団体シンポジウム（高岡、新谷、佐野、小川）
- 3月21日 日身連第2回評議員会（新谷）
- 3月27日 中央障害者社会参加推進協議会（高岡）

■ 事務局報告

- 3月1日 日本財団ビル下見
- 3月2日 第42回耳の日記念文化祭（東京）
- 3月5日 JDF 第三次報告会
- 3月8日 自立支援機器等開発成果の一般公開（中央合同庁舎）
- 3月15日 四団体事務局打ち合わせ
岩波書店打ち合わせ
- 3月19日 四団体シンポジウム機材搬入作業
- 3月20日 四団体シンポジウム要員対応
- 3月27日 公益認定等委員会事務局にて認可書受け取り
- 3月29日 機関誌発送
- 4月1日 全難聴便り No. 58 発行
《予定》
- 4月6日 人工内耳友の会との定期協議会 メーカー3者との懇談
- 4月7日 補聴医療対策部部会
- 4月8日 四団体会合
- 4月22日 高松市の手話通訳派遣を考える会・高松裁判（川井）

■ 岩波新書「音から隔てられて」復刊！！！！

1975年に発行され、1989年に第二版が発行されて以来、絶版となっていた「音から隔てられて」の復刊の要望を行なってきましたが、ようやく第三版を発行する見通しとなりました。執筆者との調整、書籍内で使われている用語に関する調整などが行われています。4月末の発行を目指しています。